

## 異性との望ましい関わり方を身につけることをねらった実践例 〈2年生の取り組み〉

### (1) コミュニケーションの実態

2年生11名（男子7名、女子4名）の生徒たちは、WISC-R知能検査によるIQが全員50以上で、比較的知的な理解度が高い学級集団である。理解力や表現力には個人差があるが、必要に迫られれば自分なりの方法でやりとりできる素地は持っている。

異性との関わりでは、身体の成熟とはアンバランスに精神面での幼さが残っているために、幼稚な言動がめだち、年齢不相応な印象を与えがちである。異性への興味・関心が高いが、その自分自身の気持ちをコントロールできないために、思いのままに身体接触などの反社会的な行動をとりがちな実態がある。自分の身体の変化に戸惑いを覚えながらも受け入れ、生理的な現象への対処（生理や精通などへの対処）に苦慮したり、異性への興味・関心が日に日に高くなっていく自分自身をどう方向づけてよいのかわからず悩んだり、という青年としての姿がみられる。

### (2) ねらい

- 性に関する学習を積み重ね、正しい知識や具体的な対処方法を身につけさせる。このような学習を通して培われた知的な理解を基盤とし、異性への望ましい関わり方を導く。
- 17歳の青年だという自覚を高め、自分自身の異性との関わり方を振り返らせる。
- 相手を思いやり大切にしようとする気持ちを育む。

### (3) 単元設定の理由

「異性」に関する事からは、17歳の生徒たちにとって一番の関心事である。異性への興味や関心は成長の現れで、この好奇心や感情を一方向的に押えつけるのではなく、うまく方向づけて自分の感情や人間関係を調整する力を育てていくことが大切だと考えた。社会参加にあたっては、異性との関わりを含めた人間関係がどうであるかにより、生活の場や働く場が限定される場合もある。興味や好奇心だけに終始することがないように、指導にあたっては、まず一人ひとりに将来の見通しを持たせ、自分の未来を切り開くために必要な学習であることを認識させた。

生活一般では、日常生活での言動を教材として取り上げたり、思いを話し合う場を設定したりするなど、生徒たちの気づきや教え合いを大切にしながら展開を試みた。知的な理解度に応じて2グループ編成をした課題学習では、主として性に関する知識面の指導を行った。ビデオ・図・人形等を使って具体的に指導したり、絵図の作成など作業的活動を取り入れたりして学習の定着を図った。また、課題学習での取り組みを生活一般の場で発表し合うなどして、教科間の連携を密にするように心がけた。

日常生活の指導では、休憩・放課後・給食時間を利用して、一人ひとりの生徒と話す時間を確保することに努め、心の動きや身体の悩みなどの観察や把握に努めながら指導にあたった。

### (4) 指導計画

月	生活一般の単元および題材	課題学習の単元および題材
4	・人の一生 ・人間のからだ	→ ・自分の一生 ・自分のからだのプロフィール
5	・わたしたちのからだ ・わたしたちの成長	→ ・男性のからだ、女性のからだ ・生理と精通の処理
6	・男性のからだ、女性のからだ(グループ発表)	← ・男性、女性のところとからだ(絵図の作成と発表準備)

7	・夏とわたしたちのからだ	→	・清潔なからだ ・性被害と防止
9	・好きなタイプ、好きな人（望ましい異性観）	←	・好きな人との接し方
10	・男女のエチケット（現場実習にむけて）	→	・清潔なからだ ・自慰の処理 ・ことばづかい
11	・困ったこと（日常生活の男女の関わりの中から）	←	・身体接触と性反応 ・勃起と射精のメカニズム
12	・こんな時はどうする？	→	・異性との接し方（迷惑をかける接し方とは）
1	・片想い、両想い	←	・異性との交際（交際のエチケットとルール）
2	・異性との交際（高校生としての交際）	←	・生命の誕生
3	・恋愛と結婚 ・自分の将来	→	・性交と妊娠のメカニズム ・避妊

→は単元の流れと単元間の関連を表す

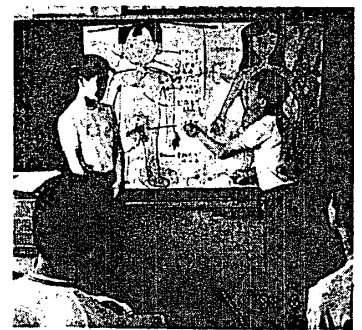
### (5) 指導の実際

自分たちのからだやこころについての学習をすすめるにつれて、生徒たちの心に「自分はもう大人になって、先生やお母さんたちと同じになってきている。」という意識が高まっていくのを感じた。

異性との関わり方で、自分自身の言動を反省したり認めたりすることは、なかなか難しかったが、話し合いのなかで友だちから「～をしたことはおかしい。」とか「～されていてやでした。」と指摘されると真っ赤な顔になりながらも、反省の様子をみせ、そのような関わり方をしないように気づかうようになった生徒もいた。

また、相手の素振りから気持ちを察するという微妙な判断ができにくいため、「嫌いだ。」とはっきり言われたい限り、相手も自分のことを好きでいてくれると思込み、手紙や電話をしつこくかけつけて迷惑をかけたというケースが数例あった。相手の方は中学校時代からの顔見知りである場合が多く、はっきり断られないため、生徒には「片想い」であるとなかなか認識できず、「先生がおこるからもうやめる。」という認識で終わってしまった場合もあった。

一番の収穫は「いやらしいこと。人前で話してはならないこと。」という性への陰湿なイメージを払拭し、身体の悩みやいろいろな思いを友だちや指導者に話したり、相談したりするきっかけともなったことである。指導者と生徒の間の距離がぐっと近くなるのを感じながらの実践であった。次にあげるE子とN男の事例は、異性との関わりが、社会参加にむけての優先課題の一つである事例である。指導の経過と変容を取り上げて紹介する。



グループ発表の様子

学習前の実態	手 だ て	指 導 の 様 子
(E子の場合) ・だらしない身だしなみが目立ち、異性の目を意識してボタンを外したり、不必要なヘアアクセサリをつける。授業中に髪をしょっちゅう触り気にするが、散髪	〈生活一般〉 ・こんなふうになりたいという理想の自分をイメージさせる。自分はどう思われているのか、どんなふうになるとよいか異性からの意見をてがかりとさせる。	最初は「嫌われてもいい。」とか「どうせセブスだもん。」などと、自暴自棄な発言が多く清潔面の実践が難しかった。美容院への校外学習で、さっぱりとした清潔な感じにイメージチェンジし、みんなから「似合うよ。」と言われたことをきっかけに、少しずつ清潔にしようとする様子が見られ始めた。また、入浴の指導により、清潔にする

<p>をしたがらない。注意がないと入浴や下着の交換、生理の処置を自主的にしようとしな。母親も知的障害をもつため家庭での指導は難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好きな異性が目に入ると、意識しすぎて興奮し、感情や行動のコントロールができなくなる。</li> <li>異性からの誘いが断れない。</li> </ul>	<p>〈課題学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的に清潔な身だしなみの方法を学習する。(散髪・入浴・下着の交換・衣服の洗濯や繕い等)</li> <li>望ましい異性観の学習を通し、健全な異性観を育てる。</li> </ul> <p>〈日常生活の指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へのよびかけ</li> <li>毎日の清潔チェックにより習慣化をねらう。</li> <li>通学のチェック</li> <li>避妊の指導(個別指導)</li> </ul>	<p>ことへの心地よさを実感し、自発的に入浴準備をして入浴するようになったり、衣服のほころびに自分で気づき、繕う姿もみられた。このように、習慣としての定着はまだまだだが、清潔面での変容はずいぶんとみられ、好印象をもたれるようになってきた。</p> <p>そのためか、通学途中で男性に声をかけられるという新しい問題が発生したが、問題行動に発展する前に「誘われたらついていってしまいそうです。どうしたらいいですか。」と相談することができた。E子の心に、自分を大切にしようとする気持ちが芽生えてきた現れだと考えられる。</p> <p>好きな異性を見ると自制できなくなる面の改善は難しく、今後は、具体的な避妊の指導を学習していかなければならない必要性を感じている。</p>
<p>(N男の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女子生徒の中にいることに心地よさを感じ、学級の女子生徒からマスコットのよう扱われても平気で喜んでいる。女子生徒に走って追いかけられたり、不必要な身体接触、股間を触られるなどの行為をされてもその関係を楽しんでいて拒否しない。男子生徒からも抱きつかれたり顔をくっつけられたりするが、不快感を表したり拒否したりできない。両親ともに、こどもの性に対する関心の高まりを認めることができない。</li> </ul>	<p>〈生活一般〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>N男をめぐっての、じゃれあいの行為について取り上げ、何がよくないのか、どうしたらいいのか話し合う場を設ける。</li> <li>自分たちの行為は、17歳の男女の関わり方として周囲から見て不快な印象を与えていることを友だちや指導者が告げる。</li> </ul> <p>〈課題学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性のからだの特徴や性反応の指導をする。</li> <li>17歳の男女の好ましい関わり方を知らせる。</li> </ul> <p>〈日常生活の指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休憩時間の行動観察と指導</li> <li>家庭への働きかけ</li> </ul>	<p>ダイヤルQ<sup>2</sup>の利用をきっかけに、初めて自慰行為を経験し、身体の成熟が著しくなったN男にとっては、初めはじゃれあいだったものが、だんだんと異性を意識しての行為に変わってきた。</p> <p>女子生徒たちは、男性のからだの特徴や性反応を学習することを通し、自分たちの行為が、N男を挑発するものであったことをおぼろげながら理解した。その結果、会話でやりとりを楽しむ方法に切り替え、女子生徒からの身体接触はなくなった。N男も学校内では、むやみに女子の中に混じろうとすることはなくなった。</p> <p>また、休憩時間にスポーツをしたり、熱中できる作業などを準備して、もやもやした気持ちを発散させる方法をとると、比較的効果的であった。</p> <p>家庭が、自慰を認め大人扱いをしなくてはならないという気持ちを少しずつ持ち始めてきたので今後は、精神面の成長が期待できると考える。</p>

## (6) 考察と今後の課題

高等部の生徒にとって、性の指導は必要不可欠で機を捉えた指導であった。生徒一人ひとりに学習への意欲が見え、知識を吸収しようとする受け皿が準備されているのを感じることができた。異性への興味や関心や憧れは止まることなく湧き出てきて、活動への意欲の源になっていくのを痛感した。

行動面での明らかな変容がみられない場合も、異性との関わり方を意識し、自制しようとしたり注意を素直に受け止め反省する姿が見られるようになり、意識のレベルでは変容してきているように感じた。

生徒たちにとっては、悩みや思いが共感できたり相談できる相手がいることが絶対に必要である。自分自身の働きかけによって、そうした存在の相手を作っていけるような力を育てていくことも大切なのではないかと考える。

今後も実践を継続し、一人ひとりの思いをくみ取りながら、適切な働きかけや方向づけをしていきたいと考えているが、「いやならいやとはっきり断る。」という拒否の意思表示については、特に緊急かつ重大な指導内容だと考えるので、心して指導にあたっていきたい。(秋田)